

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

《5月の病虫害発生予報》

<作物>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
水稲		いもち病			
		ばか苗病			
		もみ枯細菌病			
		縞葉枯病 (ヒメビウンカ)			
		イネミズゾウムシ			

<果樹類>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
ぶどう			べと病		
			灰色かび病		
もも			せん孔細菌病		
			クビアカツヤカミキリ(発生に注意)		
みかん			黒点病		
			そうか病		
果樹類 全般				果樹カメムシ類	

<野菜類>

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
		ミナミキイロアザミウマ			
トマト			葉かび病・ すすかび病		
			灰色かび病		
		コナジラミ類			
ねぎ たま				べと病	
				白色疫病	
		ネギアザミウマ			

<その他>

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類			アブラムシ類		
			アザミウマ類		
			ハモグリバエ類		
			コナジラミ類		
			ハスモンヨトウ		

《今月のトピックス》

■今後の発生に注意が必要な病害虫

- 【もも】 せん孔細菌病
- 【ぶどう】 べと病、灰色かび病
- 【果樹類全般】 果樹カメムシ類
- 【たまねぎ】 べと病、白色疫病

■一部地域で発生が増えており、今後の発生に注意が必要な害虫

- 【もも、うめ、すももなどバラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

《(参考)5月の気象予報》(大阪管区气象台 5月7日発表)

気温	低い (10%)	平年並 (30%)	高い (60%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生は、やや少なかった。 ・5月の気温は高く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。 ・種子消毒を徹底する。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ・温湯消毒する場合は処理温度、消毒時間等、適正に処理する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤耐性菌の発生が報告されている。… QoI 剤成分例：アゾキシストロビン（アミスター）、メトミノストロビン（イモチエース、オリブライト）、オリサストロビン（嵐）等
ばか苗病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生は、平年同様発生は少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。 ・種子消毒を徹底する。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ・前年発生の多かったところでは、耐性菌発生の可能性があるため、薬剤の種類を変える。 ・発病が認められた場合、発病苗はほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗作業する場所や周辺を十分清掃し、伝染源となるわら、もみガラ等を除去する。 ・浸種、催芽で使う器材はあらかじめケミクロン G 又はイチバンで消毒する。
もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の巡回調査では、平年同様発生は少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。 ・種子消毒を徹底する。本病は病原菌がカビではなく、細菌であるため本病に適用のある農薬を選定すること。 ・出芽時の高温は発病を助長するので、温度を 30℃以下にする。
縞葉枯病 (ヒメトビ ウンカ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の巡回調査では、平年同様発生は少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメトビウンカからの感染予防のため、育苗箱に箱粒剤等を施用する。 ・ヒメトビウンカはイネ科雑草で越冬するため、まだ耕起していない水田では早めに耕起して、密度低下を図る。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病は保毒したヒメトビウンカが媒介するウイルス病である。

イネミズゾウムシ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年の発生は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 極端な早植はそのほ場に越冬世代成虫が集中し、被害が増大する。 移植後は、浅水に管理し、健全な発根を促す。 発生の多い所では、育苗箱に箱粒剤等を施用する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼虫は根を食害し、成虫は葉をかすり状に食害する。 中山間の水田で発生しやすい。
----------	---	--

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の降雨量はほぼ平年並、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月～10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の降雨量はほぼ平年並、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。 落花直後の花かすを取り除く。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年8月に発生が多かった。 5月の降雨量はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝染源となる春型枝病斑は除去し、適切に処分する。 薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前の散布が効果的である。 風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部地域において発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 <p>※詳細は技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・5月の降雨量はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年同様少なかった。 ・5月の降雨量はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生の多い園地では、落弁期の防除を徹底する。

4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年秋および4月のフェロモントラップによる誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。) <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が23~28℃位で、湿度が高い条件で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので、花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は20℃程度、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・5月の日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は日照不足、高温乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤 (アミスター、ストロビー)、SDHI 剤 (アフエット) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・5月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
--	--	--

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・5月の日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 ・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉かび抵抗性品種を導入する。
灰色かび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・5月の日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。
コナジラミ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病 (TYLCV) を媒介する。

3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・5月の気温は高い、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の排水を良くする。 ・すでに発生を認めているほ場では、収穫前日数に注意し、直ちに薬剤散布を行う。 ・発病した株は翌年の感染源になるので、ほ場外に持ち出して処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べと病は多湿、日照不足で多発する。気温が15℃前後で、降水量が多いと増加する。特に4月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと発生が多くなる。葉に黄変を生じず、突然灰色～黒色のかびを生じることもある。
白色疫病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・5月の気温は高い、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白色疫病は15℃～20℃の多湿、日照不足で多発する。
ネギアザミウマ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並み～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス（CMV）などがある。
アザミウマ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・5月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から発生が増えるので、少発生時の防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス（TSWV）を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。
ハモグリバエ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並で発生はなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.6mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。
コナジラミ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、

		<p>成虫の侵入を阻止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) を媒介する。
ハスモンヨトウ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並で発生はなかった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並みであった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。 ・卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)